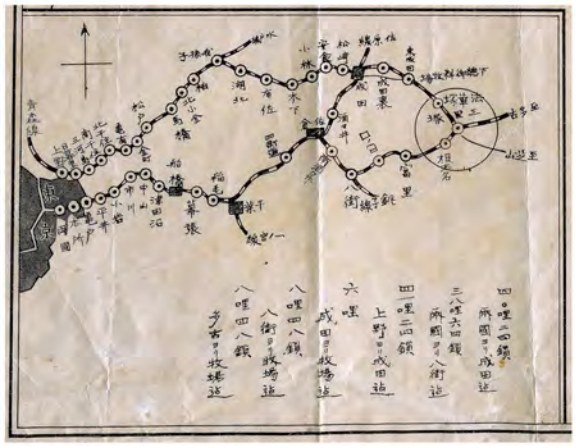
三里塚の春は大きいよ！
三里塚を全国区にした「幻の軽便鉄道」展

協力：軽便鉄道を考える会

「三里塚の春は大きいよ」

これは高村光太郎の『春駒』のなかの一節です。このように著名な文人にも愛された三里塚の発展には軽便鉄道の力が欠かせないものでした。はじまりは明治43年。三里塚に駐屯していた陸軍鉄道連隊の演習用として敷かれたもので、翌44年に成田―三里塚と三里塚―多古間、大正3年に三里塚―八街間も開通しています。当初は軍用鉄道でしたが、次第に地域交通の要としての役割を担うようになっていきます。昭和に入ると国有鉄道と同等のレール幅に拡幅され、上野や両国から直通列車が運行されるようになりました。乗客のお目当てはもちろん「三里塚の春」。三里塚は、桜の名所として全国にその名を轟かせたのです。昭和19年に太平洋戦争当時の南方占領地の鉄道開発のために資材転用され、姿を消してしまいましたが、鉄道の名残はまだまだ各所に見られます。

この企画展では、当時の繁栄ぶりが分かる資料や写真、枕木をはじめとした鉄道遺品、ジオラマなど、貴重な資料が一堂に会します。かつての「大きな三里塚の春」を思い浮かべながらご鑑賞ください。



令和４年 4/23(土)～5/8(日)

9:00～17:00

場所 三里塚コミュニティセンター 1階サロン

主催 成田市 三里塚コミュニティセンター
成田市三里塚2番地
TEL：0476-40-4880 FAX：0476-40-4895